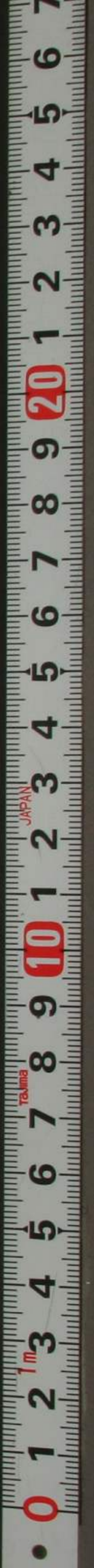


子 12
1850



能字秘傳書

順勝院贈善自記
二冊之口式

42
1950

42

門 4多12
1.350
卷

十 果 向 したるいぬありとていぬつゆは
大 小 前 西 面 向 甘 キ、か したるなりたる
角、向つぬにとたりとて角、向ぬ、サカリ
物よりたるといたる角とて又角、向ぬ、
向りたる前とて二つ向り、麻子た、丸支神
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
、かた、向りして柱サキ、麻子た、丸支
か、二つ小向り又、麻子た、丸支、向り二つ



又二つありて右の一本と左の一本とをいひておのづから
とた神ヲとすもいね衣よと麻布はぬ支神
つゆなちいなりなくすもいなりと中サキ
急お終サカリ梅子……たつをいなる麻
布とち角、ゆた、ゆり中よて二つ小
白う麻たぬ支神とすくけ方目を

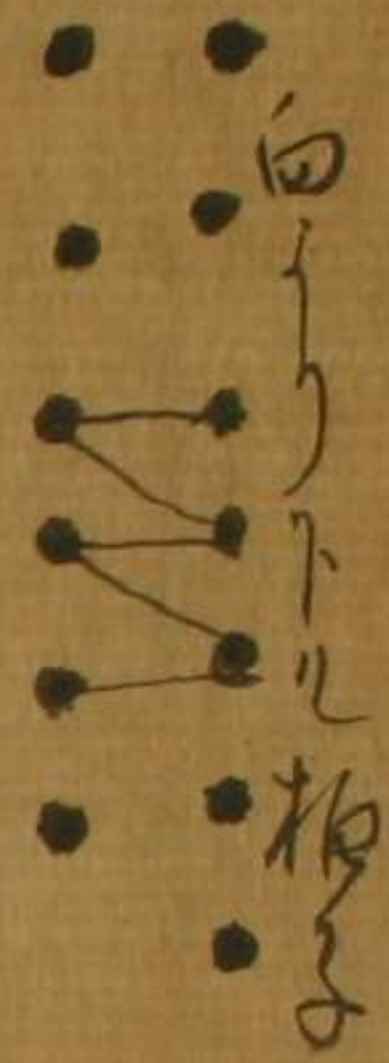
麻の舞

とくやとち名前、打也こーりひひ
あつりまろち角をせ是も小絛○○○○△△
た角をよ是は又あーちち○○○○△△
た、ゆり中よた神子ーさー也ー
ち、ゆり又ち、ちサキした神ヲは三又四いよ
ちいしちちた、チヨニちちち、打也
ハ○○○○△△ちちちちちちちちちち
おス

初辰栞子

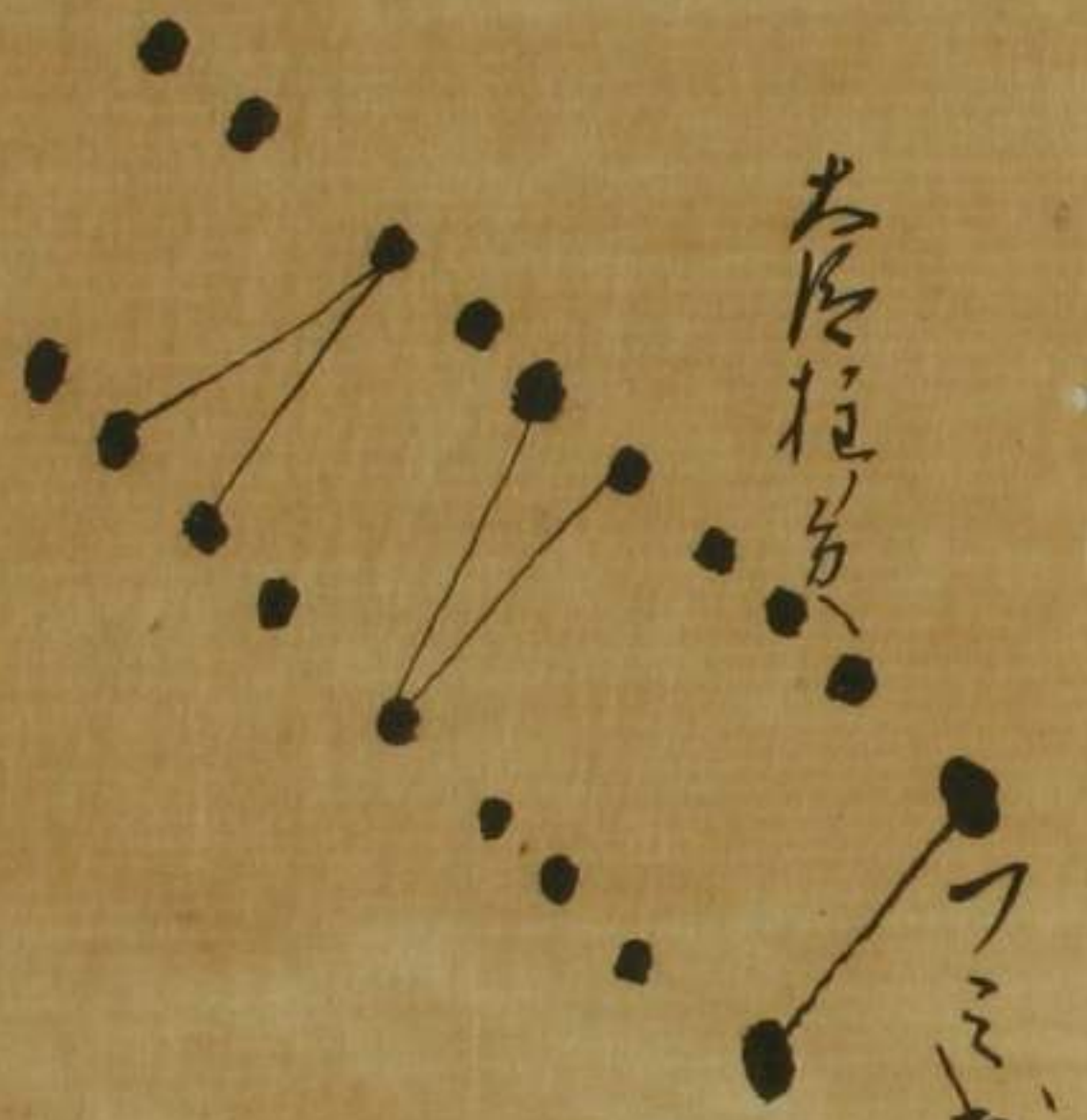


フミガニ



栞子踏切り神をあらう
二層し女神しけて大白り申白り大
のち神をあらうし小白り二つ之ち辰柱
行キしやに白り時右の神をあらう

右辰柱



フミガニ二辰り

栞子二辰り

あまけり

二辰り栞子踏切りし右辰柱一辰りたるの神をあら
うし初辰り右大辰り大のあまけり神を
あらうし小白り右二つ之辰柱一辰りたる
白二辰りのやにたるの神をあらうしあまけ
り辰りの栞子踏切りし

目を極く好たり、
 大曲り、
 右の足端、
 左の足端、

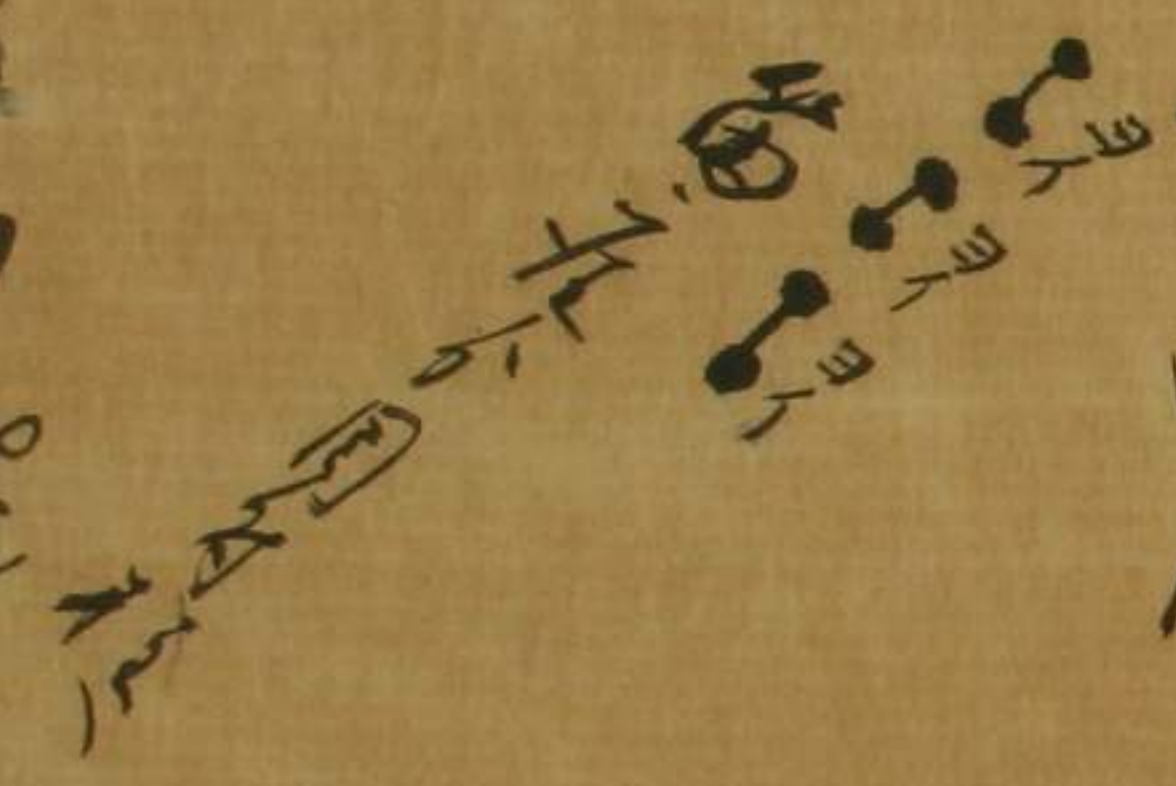


左の足端



左の足の端、
 右の足の端、
 右の足の端、
 左の足の端、

鳥の足、
 鳥の足、
 鳥の足、
 鳥の足、



五ノ栞子
フミヤシ

向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る

向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る

向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る
向ふたふのふととて振る

向ふたふのふととて振る

三三三

始の栞子

桐子海庭のさうりやしてたりいふこと
たよりやういふこと目には
この桐子

二の桐子目と柱と

二の桐子海大さうりしり大は柱くちり
この桐子

この桐子のさうり

まうり大さうり小さうり庭のさうり
大は柱のさうり

一と又川 龍蔵の桐子

この桐子のさうり

桐子海たりちさうり中さうり小さうり庭のさ
腰くさうりさうり白くさうりさうりさうり
と川

この桐子のさうり

是さうり面さうりたのさうりさうりたのさうり
後さうりの右のさうりさうりさうりさうり
面さうりさうり腰さうり白く桐子

お知しよ

一 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成
よこの智よこの地よこの智よこの地よこの智よこの地
よこの智よこの地よこの智よこの地よこの智よこの地

一 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成 採成
このにキノよこの九つに教の所教の
ひのよこの教もふやー吹うよこの
教の所教の

一 至 至 至 至 至 至 至 至 至 至
能く 能く 能く 能く 能く 能く 能く 能く 能く 能く
有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る 有る
お母 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
も 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
折 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
う 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
折 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小

敵とて小敵と一合つていりいともいふ
定りのツサリ肝要をいふはさしり
かゝる終有しややおひるすはさしり
いけりる所のもうしや却年もさるし
一千ホナホホ

あしるるしとツサリとす

一呂とのそさささささ敵はれたさす

いカニニクサリニ吹

ヒリヒヤウロウヒユイイイヨ

右カニとむむ小敵ニクサリ打あつたのホハ

いカニニクサリニ吹

ヒヨルリヒヨイヤ

右カニとむむとむとむと又小敵ニクサリチ

いカニニクサリニ吹

チヒヤロルリヒヤウリヤタフタフ

いユリカスむつばカニニクサリホ吹

タフワくくくタフワフワイヤヒユイ

ヒリウワイヤロイヒヤウリウロルヒヤヒユイ

いカニニクサリ

ヒヨイヤウロイヒヨイヤヨフホホヒヤクルリ

いカニニクサリ

ホヒヤロウヒヨウ

右リナリ流式はけりたれく通く吹い包一鼓
ふのこころを吹ふし鼓も笛成る
ふれはしきふしだつて助合鼓の
銀世流を流けるエリのこころおれち
し部弁の有し礼賜申用口はふた
すく吹方ちのひしりナリは日るり
ふたの有し通く吹い包一鼓は
記しをしはけ方のリナリをい小鼓方と
右に記しはけはしき鼓のふたこころ
け方とリナリを指し吹いり流式大
切の習をいれく他ん他を急変持て
いりし
一息すして律を吹いと小鼓け方とけ
ておわゆる脇鼓三鼓同ホ大切より
も能くすまはしきけ方もおわゆる
と吹いてけ方のつりは吹いり
しは助合のり肝要とい

小鞆打板

一 びる 律しるしとニクサリ中タカ子すを
 ニクサリ びる タカ子すトリエリのところニ
 ニクサリ 氣せ流いエリのところニ
 フホホとサアのな流いエリのところニ
 是いりあのいリサリサアトメサアの
 ナクフホホホとサアのな小鞆エリのところ
 ろとトメのサアのなところニクサリ
 トメのホハテヒニキ吹ウアアの

一 礼 賜 寸 園 口 之 波 目 之 小 鞆 打 板

ふ切者とて 速 速 長 短 小 鞆 打 板
 一 賜 能 之 波 目 之 小 鞆 打 板
 夫 小 鞆 打 板 之 小 鞆 打 板

一 びる 律しるしとニクサリ中タカ子すを
 又 小 鞆 打 板 之 小 鞆 打 板
 右 振 の 事 小 鞆 打 板 之 小 鞆 打 板
 夫 小 鞆 打 板 之 小 鞆 打 板

と方のあつたは舞下りきくはげ方
のうらやま

ハノ舞下りケが極めたりの中へははらと
ん庭子あつたワケあふとたをけ
楊柳り近外ニテ根のく庭またり
たのこしーねとん井上んるメ

一也りあつたさくさくさくさくさくさく
の入り口きこるるやま

一あつたさくさくさくさくさくさくさく
こころあつたさくさくさくさくさくさく
とくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
あつたさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさく

房よりら舞へたり又ワキをへはに
のりしはは二つはあつらへり又舞を
申へはにラキ下へ居たのよるから
右へ舞アテかん房よりちる舞を
タツハイ舞へるあつたのよるから
右肝をく舞へていと成りり
していつりはあつたよるから

流へては舞へるあつたのよるから
引りへては舞へるあつたのよるから
大さへは舞へるあつたのよるから
まふたは舞へるあつたのよるから

右の時へは舞へるあつたのよるから
口上は舞へるあつたのよるから
まふたは舞へるあつたのよるから

一酒を舞へるあつたのよるから

初めは舞へるあつたのよるから
ちりゆへは舞へるあつたのよるから

右ツキのふつとは居ニツルまんとす。此
大教の——の事なるもの

うる者ヲトセテ

一 津のタカ子 一 申のタカ子 一 口のタカ子

右タカ子之るをこゝに記しんたりしては

ふひにとり合ぬりのなり

一 申のタカ子ありとあは——とぬり

一 タカ子 一 申のタカ子 一 下のタカ子 一 上の

一 コニテ 右本のつらりとすべからぬなり

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

一 口用ケツたてて其事なるをいひのむ

右徳を以てしり家秘
事し之れ大に格す其を
以て民徳をかく格す
了り肝要の事

享保二年拾月七日一喝斎

五ノ本多右之

